

氏名	梶 原 正 行		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	乙 第 1468 号		
学 位 授 与 の 日 付	昭和59年 6 月30日		
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）		
学 位 論 文 題 目	マウス奇形耳小骨の病態に関する病理形態学的研究		
論 文 審 査 委 員	教授 村上宅郎	教授 小川勝士	教授 松尾信彦

学位論文内容の要旨

聴器伝音系奇形に対する聴力改善手術において患耳の奇形病態を正確に把握することは適切な手術操作を可能にする必要条件であるので、実験的に動物の耳に種種の奇形を作り、その病態をヒトの例と比較検討して、臨床応用の一助にしたいと考え次のような研究を行った。

実験動物として ddN 系マウスを使用した。妊娠第 8 日目に水性 Vitamin A 15,000 単位を腹腔内注射し、妊娠第 18 日目に胎仔をとり出した。得られた奇形胎仔 90 胎の中から 20 胎 40 耳の連続切片標本作製し主として耳小骨の奇形病態を組織学的に観察し、形態分類を試みた。

その結果、きわめて多様な奇形病態がみられ、特にツチ・キヌタ骨と Meckel 氏軟骨、アブミ骨と Reichert 氏軟骨のそれぞれが、発生学的に密接な関係にあることを確認した。また異常な遊離アブミ骨例の認められたことは内耳骨包由来のアブミ骨底の形成がなかったためと考えられ、Anson らのアブミ骨 2 元説を示唆する所見と思われた。

論文審査の結果の要旨

本研究は耳小骨の奇形をビタミン A 投与マウスについて実験的に研究したものであるが、従来十分確立されていなかった耳小骨奇形の発生過程と形態について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。